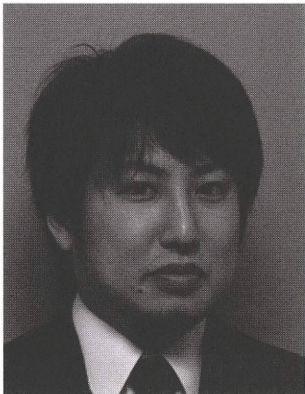


歯科衛生士のための研修セミナー



講演 1：絵本開発の経緯と絵本を利用した 歯科診療の客観的評価

(医) おおの小児矯正歯科 (山口県下関市) **大野 陽真**

略 歴

2008年 福岡歯科大学卒業
2008年 九州歯科大学附属病院研修医
2009年 (医) カノミ・矯正・小児歯科クリニック勤務
2011年 (医) おおの小児矯正歯科勤務

子どもは、歯科診療において泣き暴れるなどの不適応行動を起こしやすく、このことは養育者（母親）が歯科医院への子どもの受診をためらう原因につながる。当医院では障がい児（者）の視覚支援に用いる絵カードを利用している際、子どもが想像力や好奇心が旺盛なことに驚かされた経験から絵本を開発した。

今回、絵本の開発の経緯、使用における基本的考え方および絵本の客観的評価について講演する。



講演 2：絵本の作り方と健常児への活用

田中こども歯科医院 (佐賀県鳥栖市) **田中 克明**

略 歴

1993年 九州大学歯学部卒業
1993年 九州大学歯学部附属病院小児歯科勤務（研修医）
1995年 おおの小児矯正歯科（下関市）勤務
2004年 佐賀県鳥栖市にて開業

絵本は、子ども本人はもちろん、その養育者にも診療内容の理解が得られる効果があり、とても有用なツールである。出版社などからも子ども向けに診療内容を説明する資料が多数発刊されているものの、絵本はそれぞれの医院で実際の診療内容に合わせて独自に作ることで、より説得力の高いツールになり、医院に対する信頼感が強固になる。

今回、特別な機器を使うことなく（デジカメのみで可）作成した絵本を制作から利用法までを紹介し、健常者の行動調整に絵本が効果的な理由を考察する。